

『栗原地域農業用水連絡調整会議』を 開催しました！



今年は降雨量が極端に少なく、栗原管内では農業用水不足が生じていることから、令和7年7月23日（水）に「令和7年度 栗原地域農業用水連絡調整会議（農業用水対策連絡会議地方幹事会）」を開催しました。



本会議は、北部地方振興事務所栗原地域事務所農業農村整備部が事務局となり、関係機関（栗原市、新みやぎ農業協同組合、栗原管内土地改良区、栗原地方ダム総合事務所、栗原地域事務所農業振興部）が参集し、農業用水の現状、水稻の生育状況等について情報共有を図りました。また、今後の取組みについて、活発な意見交換がなされました。

用水不足に対する抜本的対策は、降雨を期待するほかありませんが、今必要とされることは、「**農業用水の節水**」と「**水田の飽水管理（※）**」の徹底であることから、関係機関が一丸となり、積極的な情報発信に取り組むことにしました。

※「^{ほうすい}飽水管理」とは
飽水管理とは、稲作において根の活力を維持し、作物の成長を促進するために重要な水管理手法で、限られた用水で実施することが可能です。

ご協力ください

農業用水の節水にご協力ください！

- 県内では、6月以降まとまった雨が降っていないことから、農業用水が不足している状況にあります。
- 貴重な水を有効に活用するためにも、節水へのご協力をお願いします。

節水に効果的な取り組み

用水の掛け流しの防止 飽水管理の実践
(詳しくは裏紙をご覧ください)
宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所 農業農村整備部

今後の栽培管理のポイント

（中干し後の水管理）

※1 中干し後の降雨が少なく、管内のダム貯水率が低く維持されています。今後の天候によっては十分な農業用水確保できなくなる可能性も考えられるため、限られた用水で実施可能な「飽水管理」を有効に行ってください。

※2 田植え前には根が最も水を必要とする時期です。田植え3日目までは「飽水管理（はらすのり）」を行い、土壌をしっかりと潤わせます。

～飽水管理とは～

従来の水管理方法に比べ、限られた用水で実施可能となります。また、開水かん水に比べ、より土壌を豊かに保ち、根の活性が高まる管理手法です。

※3 施肥量：自然農法等から増量する可成りまで、
※4 土壌改良：水田を閉めたまま自然農法で、土壌の豊かさがなくなった場合、または、灌水のタイミングで入水する。

※5 注意：従来の灌水管理では根間に水漏れが起つたため、根腐れも下がり、元気で育たない農作物が確認されています。自然農法等の経験豊富な農業者への「飽水管理」での、水田に根腐れが起らないように、灌水管理の実践が重要です。
農薬・水田の管理は行わないように、水田の豊かさは保たれます。

水田を閉め、田面が乾くくらい（ひたひた）になるように入水する。

自然に灌水して、根腐れや病気が発生しないように、又は灌水のタイミングで灌水し、根腐れが起らない状態を保つ。

※6 日数はあくまで目安です。地域や稲の生育状況にあった水管理をお願いします。
※7 田植えにおける飽水管理（はらすのり）の方法
【地域で話し合い、隣りある関係者等と相談しながら工夫しましょう】

※8 中干し後（田植え後1～2週間）から中干し明け（田植え後3～4週間）にかけて、農家は1～2日以下の日が続く場合は「飽水管理」を行い、田面を潤わせます。

「農業用水の節水」と「飽水管理」(PDF)